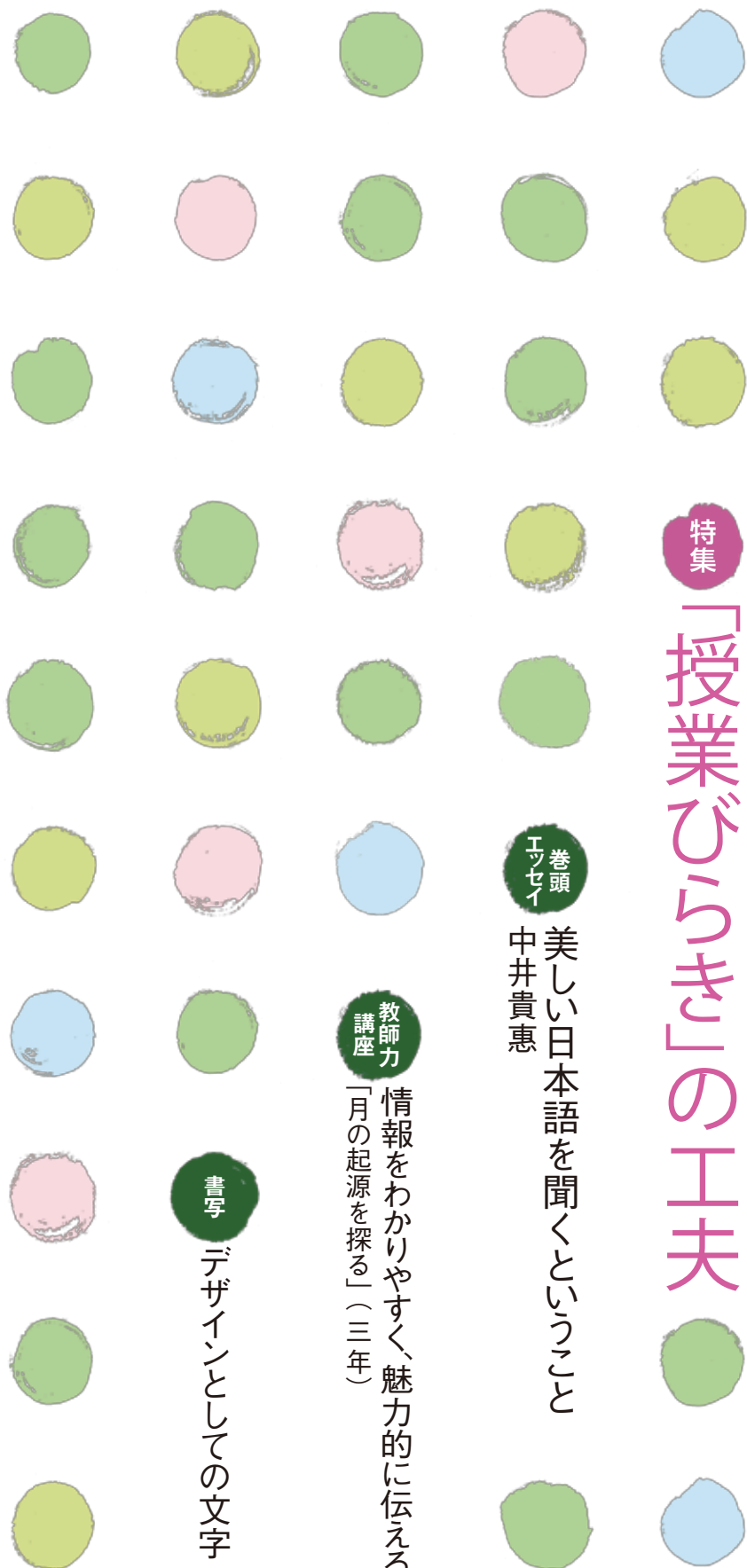




特集

「授業びらき」の工夫

巻頭
エッセイ

美しい日本語を聞くといいこと
中井貴恵

教師力
講座

情報をわかりやすく、魅力的に伝える
「月の起源を探る」(三年)

書写

デザインとしての文字

板書の文字、 気になったことはありませんか？

板書している最中、「あれっ、この漢字の筆順はこれでよかったのかな」などと気になったことはありませんか。気になる筆順や点画・字形の書き方は常にチェックしておきたいものです。本書は、国語科書写の教科書に掲載されている、点画の書き方、筆順、字形のポイント、行書の書き方などをふまえ、これらがひと目でわかるように編集されています。書写の指導資料としてはもちろんのこと、毎時の授業における板書文字のチェックには最強の味方になってくれるはずです。(宮澤正明／山梨大学教授)

好評発売中!

新・字形と筆順

光村図書の書写ハンドブックの決定版!
21年続くロングセラーが、リニューアルして登場
新常用漢字(2136字)に書き文字で対応



- 光村図書「書写」教科書編集委員による手書きの文字
 - 教科書体活字に即した書きぶり
 - 全文字に間違えやすい部分に配慮した筆順分解を提示
 - 日常に役立つ、毛筆楷書、硬筆楷書、硬筆行書の3種を提示
 - 字形のポイント、許容についての図示
- ☆付録として「筆順チェックシート」も!

宮澤正明 編
定価1,890円
360ページ 四六判
ISBN978-4-89528-679-4



光村図書

中学校 国語教育相談室 通巻No.152 2013(平成25)年4月5日発行 定価126円(税込)
発行人=常田 寛 発行所=光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp
印刷所=株式会社 加藤文明社 デザイン=mint grafix

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。詳しくは、光村図書ホームページ「光村チャンネル」をご覧ください。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。

打つべきか打たざるべきか

早稲田大学教授
もりやま たくろう
森山卓郎

平成23年度「国語に関する世論調査」では、「文章や手紙、メールなどを書くときの句読点等の使い方に関して、何か困っていることがあるか」という質問に対して、「困っていることがある」という回答が24%であったという(2069人への調査)。

句読点は重要だ。次の文(?)は句読点を打つと劇的にわかりやすくなる。ももももすももももももすももももものうち

次ようになる。
ももも、もも。すももも、もも。ももも、すももも、もものうち。
まあ、句読点がなくとも漢字で書く
と十分わかるという話もあります。はい。
ついでに私が以前作った「つきとき
つき」の改良型もどうぞ。

きつつきつつきつつきつつき
つつきかえせずきつつきつつきた
いとつききつつきつつきたいつき
いつみかづきになる

句点(。)や読点(、)のありがたみが、我ながらしみじみとわかる。しかし、句読点の使い方には定式化しにくいところがある。私はふつう接続詞の直後には読点を打つのだが、世の中では必ずしもそうではない。「しかし」を例に後に点を打つかどうかをみてみると、「毎日新聞社説」の1999年4月〜2000年8月までのテキストでは8割程度であった(1108個中891個)。全てではないが、まあ納得できる。

ところが、『吾輩は猫である』『坊っちゃん』『草枕』『野分』『虞美人草』『坑夫』『三四郎』『それから』『門』『彼岸

過迄』『行人』『こころ』『道草』『明暗』という漱石の小説では、「しかし」、「然し」と点があるのはわずか14%「しかし」1427個「然し」437個計1864個の中で各々18個と8個の計26個)。ちなみに現代作家でも、村上春樹『ブルウェイの森』では、「しかし」78例のいずれも読点はないようだ。この「しかし」の例のように、どのような場合に読点を打つかは人による。

句点も同様。「いいえ、〜」「いいえ、〜」のように、いろいろな場合がある。そう、句読点、打つべきか打たざるべきか、それが問題だ。

おっと、「それが問題だ」の前は、「打つべきか打たざるべきか——」とでもする方がいい? いや、その前に「打つべきか」の後に読点を打つべきか?

CONTENTS

探検!言葉の森20 打つべきか打たざるべきか ————— 森山卓郎

巻頭エッセイ
言葉と向き合う 02 美しい日本語を聞くということ ————— 中井貴恵

特集 04 「授業びらき」の工夫

提言 最初にこそ手をかけよう ————— 高木まさき

実践事例1 「国語っておもしろくて、深い!」と思わせる
————— 宗我部義則

実践事例2 生徒たちの「新鮮な気持ち」を大切に ————— 堀江佐和子

実践事例3 最初の出会いを魅力的に ————— 鈴野高志

教師力講座17 16 情報をわかりやすく、魅力的に伝える「月の起源を探る」(3年) — 甲斐利恵子

書写の世界を
広げよう1 20 デザインとしての文字 ————— 鍋島稲子

美しい日本語を聞くということ

女優

中井貴恵

「大人と子どものための読み聞かせの会」の活動を始めて早十五年がたった。幼稚園や小学校、病院などこの十五年の間におよそ九百か所以上のところを訪れ、手作りの大きな絵本と生の音楽と一緒に童話を朗読している。

俳優の仕事はしてきたが、声に出して物語を読むという、いわゆる「朗読」というものに真剣に取り組んだことはなかった。「童話」の延長線上にある「朗読」だ。台詞を覚え表情や体を使って表現する演技に比べたら、さほど難しい作業ではないだろうとたかをくくっていた。しかし、さまざまな作品を声に出して読めば読むほど朗読は奥深い作業であり、また文章が平明であればあるほど声に出して伝えることの難しさを実感している。

子どもたちがこの世に生まれ最初に触れる物語のそのほとんどは、大人の声を通して聞くものである。自分で文字を読み、物語を理解するいわゆる読書ができるようになるそのずっと前に、子どもたちは誰かの声を通して言葉というものを聞き、物語を知るのである。そう考えると絵本を真ん中に大人と子どもが過

す時間は、とても貴重であり大切なことがわかる。

私たちの会が取り上げている作品の中に、森山京みやまさんのきつねのこシリーズと呼ばれている童話集がある。おなじみの『きいろいばけつ』をはじめ『ぼくだけしってる』『つりばしゆらゆら』『たからものとのんだ』『あのこにあえた』。どれもきつねの男の子くんすけ君を主人公とした作品である。私が会を立ち上げるきっかけになったのが、この中の『つりばしゆらゆら』という本に出会ったことだった。当時長女は五歳。その誕生日に知人から贈られた本がこの『つりばしゆらゆ

ら』だった。

谷川にかかる一本の長いつりばし。このつりばしの向こうにまだ一度も会ったことのないきつねの女の子が住んでいると知ったくんすけは、その女の子にどうしても会ってみたいと思い、友達に内緒で一人でつりばしを渡る練習を始めるのである。雨の日も風の日も、毎日少しずつ歩を進めるくんすけ。橋板のすきまから深い谷底をみて立ちすくんだり、雨に濡れた橋でしりもちをつきそうになったり、怖い思いを繰り返しながらも少しずつ橋を渡って行くくんすけ。このけなげな姿について読み手である大人の私が「がんばれ」と後押しをする。「もう少しで渡れる……。だからがんばって」。しかし、物語の最後には思いがけない結末。くんすけは橋を渡りきることはできず、会いたい女の子にも会えないまま物語は幕を閉じるのである。

悲しいわけでもないのに、涙があふれ出た。「がんばったらできる」。それまで子どもに何度もそう言い聞かせて子育てしてきた自分だった。でもよく考えれば自分だって、がんばってもできないこ

とがたくさんあったじゃないか、と言われていたようだった。全部できなくてもいい、がんばることに意味がある、がんばる姿にこそ人々は胸を打たれるのだ、と本は優しく私に諭した。

私の人生を変えたといっても過言ではない一冊の本との出会いだった。これを機にシリーズすべての童話を幾度も繰り返し読んだ。そのすべての作品に込められた温かいメッセージ、そして物語に流れる美しい日本語。私はすべての作品を私たちの読みかせの会で取り上げ今まで何百回となく朗読をしてきた。

森山さんの童話には、声に出して読んだとき、実に心地良い一定のリズムがある。そしてもう一つ、森山さんの童話を繰り返し声に出し読んでいるうちに気がついた不思議なことがある。それは、口語体ではめったに使われることのない言葉が一冊の童話の中にたくさん出てくることだ。たとえば『あのこにあえた』（これは『つりばしゆらゆら』の続編ともいべき作品でこの物語でくんすけはついにつりばしを渡りきり会いたかった女の子に会える）ではそういう言葉が実にふ

んだんに使われている。

- ・ まるきばしのたもと
- ・ つりばしのきわ
- ・ あゆみをすすめる
- ・ ゆくてをながめる
- ・ ふつとりやめる
- ・ かわのせおと
- ・ ようようわたりおえる

日常の会話で現代の大人である私たちも使わないような、またこの言葉だけを取り上げて子どもに意味を尋ねたら、おそらく首をかしげるであろう言葉ばかりである。しかしそれは同時に、昔ながら

の言葉だが日本語独特の語感や響きをもつ美しい言葉でもある。読み進められる童話の中でそんな言葉がずっと耳に入ってくれば「つりばしのきわ」も「ふつとりやめる」もおそらく確実に、そして自然に、正しい意味を子どもたちは理解するのである。あえて子どもが意味を問わない限り説明もせず読み流す。そんな言葉の伝え方や教え方ができるのも朗読ならではの産物だろう。

二〇〇〇年に設定された「子ども読書年」を皮切りに、「読書」は各学校で大切な教育の一つと位置づけをされ、読書への取り組みも多様化している。しかし読書好きな子どもたちのかげで、読書嫌いな子どもたちが重い荷物を背負ったのも事実だ。私は読み聞かせという作業を通して読書嫌いな子どもたちの脳裏のどこかに、耳から聞いた美しい言葉や、温かい物語を残せたらと思っている。大きくなってからでもいい、昔聞いた言葉や物語を思い出し、いつかその本を手にとってくれたら、それが私たちの読み聞かせという作業の一つの完結であり、終着点なのかもしれないと思っている。

中井貴恵
なかい きえ

東京都生まれ。女優・エッセイスト。早稲田大学在学中、映画「女王蜂」でデビュー。その後、数々の映画やドラマに出演。1982年に日本アカデミー賞助演女優賞を受賞。エッセイや絵本の翻訳も手がけ、98年より、「大人と子どものための読みかせの会」を立ち上げ、大型絵本と生の音楽をつけた独特の読みかせを行っている。



特集

「授業びらき」の工夫

いよいよ新学期。生徒たちは期待に胸をふくらませていることでしょう。その気持ちに応えるために、どのような「授業びらき」をしたらよいのでしょうか。本特集では、三人の先生方に、それぞれの工夫をご紹介いただき、高木まさき先生に授業びらきの大切さについて、ご提言をいただきました。

提言

最初にこそ手をかけよう

国語の学習への期待感をもたせる

中学生になると「なぜ国語を学習するのだろう」と思ったり、「国語を学ぶことに意味があるのだろうか」と懐疑的になったり、さまざまな気持ちをもつ生徒が出てきます。授業びらきでは、生徒の知的好奇心をくすぐりながら、国語を学ぶ意味を考えさせたり、国語の奥深さを感じ取らせたりして、この一年間の学習に向きあう気持ちをもたせてあげたいものです。

本特集では、三名の先生方の実践をご紹介します。宗我部先生（P6-9）は、国語の根源ともいえる、声や言葉を取り上げ、国語のおもしろさや奥深さを体感させる授業をしています。また、堀江先生（P10-13）は、自作のプリントを使いながら、国語の学習への思いを生徒へ伝えていきます。鈴野先生（P14-15）は、国語を学ぶ意味について生徒へ真剣に語りかけています。このように、授業びらきで国語を学習する意味を魅力的に伝えられたら、生徒たちは

これからの授業に、期待感をもつようになるでしょう。

また、最初の授業では、生徒たちが少し緊張しているので、宗我部先生や堀江先生の実践にもあるように、声を出す場面を取り入れるとよいかもしれません。緊張を解きほぐして、教室によい雰囲気をつくることも大事です。

授業のルールを教える

授業びらきでは、授業の中でのルールについても、きちつと指導していく必要があります。ルールというと堅苦しく思われがちですが、最低限のルールを守ることで、豊かな話し合いができたり、自分の考えを深めたりすることができます。話し合いや発表のルール、ノートの取り方などは、早い時期に丁寧に指導しておくべきでしょう。宗我部先生が「ノート指導はすればするほど、国語の力がつく」と話されていますが、私もノート指導は特に大事だと思って

います。ノートはただ板書を写すだけでなく、友達の見解をメモしたり、自分の考えを書き留めたりすることで、書く力に加え、メモ力や思考力など、国語の総合的な力を養うことができます。それにノートは、生徒の学びに関する貴重な情報源になります。生徒が気持ちを新たにすると、一学期に、ノートをしっかり見て指導してあげてほしいなと思います。

学期初めは、何かと忙しいものですが、丁寧に授業びらきを行えば、その後がずいぶん楽になってくると思います。労を惜しまず、最初にこそ手をかけて、生徒たちと向き合っていたきたいと思います。（談）

高木まさき

静岡県生まれ。横浜国立大学教授。中央教育審議会国語専門部会委員。全国的な学力調査の実施方法等に関する専門家検討会議委員などを歴任する。著書に『「他者」を発見する国語の授業』（大修館書店）、『合科的・総合的な学習のための読書関連単元100のプラン集』（共編著 東洋館出版社）など。光村図書の小学校・中学校「国語」教科書編集委員を務める。

「国語っておもしろくて、深い！」 と思わせる

授業びらきでは、生徒に「国語の学習って、おもしろくて深いんだな」と思わせたいと話す宗我部先生。第一単元では、生徒の知的好奇心をくすぐるような授業をされています。また、ノートの取り方、発表やグループ討議のしかたなど、授業中の「作法」についても、最初の授業で丁寧な指導されるそうです。今回は、宗我部先生のさまざまな授業びらきの工夫の中から、一部をご紹介します。



そが べよしのり
宗我部義則

埼玉県生まれ。お茶の水女子大学附属中学校教諭。お茶の水女子大学非常勤講師。国立教育政策研究所「教育課程実施状況調査問題(中学校国語)」作成および分析委員。平成20年告示中学校学習指導要領解説国語編作成協力者。編著書に「群読の発表指導細案」(明治図書出版)など。光村図書中学校「国語」教科書編集委員を務める。

1 声や言葉に対する 興味・関心を引き出す

最初の単元では、国語の学習の「根っこにあるもの」に対する興味・関心を引き出すような授業をするように心がけています。例えば、一・二年生だったら、「響く声」を身につけよう」という授業をよく行います。国語の学習の根幹にある「声」についての興味を引き出す内容です。

「声というのは『出す』ものでなく、塊^{かたまり}で『届ける』ものなんですよ」と切り出し、



私が窓側・廊下側・一番後ろの席など、さまざまな方向へ声をかけ、生徒に聞こえ方を確認させます。また、一人の生徒を前に立たせ、胸の前でボールを受けるときのように手を広げさせます。「この手の平にあてるように、声を出してみよう」と投げかけ、残り全員で「わつ」と大きな声を出します。すると、一点に集中した声は驚くほどの圧力をもって感じられ、前に立った生徒は「手の平に『音圧』を感じた」などと話します。そうやって、「声は『塊』で届く」ことを体で感じて納得させるのです。

この授業では、全員で声を出すので、一体感が生まれ、教室がとても楽しい雰囲気になります。第一時で「響く声」を行った後は、第二時で「響く声で、〇〇さんを紹介しよう」という、インタビュークラスメイトを紹介する、という授業をしたり、「朝のリレー」などの詩を使って群読や朗読を楽しんだりしています。

いっぽう、三年生なら、言葉の奥深さに出会わせたいので、よく俳句を取り上げます。俳句は世界で最も短い定型詩といわれますが、この短い言葉のつながりの中に、

の静から「蛙飛び込む水の音」の動へ、そして再び静寂へ。けれど戻っていった「静の世界」は、最初のよどんだ死の世界ではなく春の生命感がじわりと感じられる「生の世界」です。この授業の後は「こんなにいろいろな意味があるとは思わなかった」「俳句の中に大きな宇宙があるみたい」などの感想が寄せられます。俳句は、テキスト全体を見渡したうえで、表現方法やその効果を検討できるので、言葉の奥深さやおもしろさを短い時間で感じ取らせることができます。三年生の授業びらきの教材としてたいへん有効だと思います。

2 話し合いのしかたを 身につけさせる

授業びらきでは、これから授業を受けるための「作法」的な部分も教えていかなければなりません。私はグループでの話し合いを多用するので、次のようなグループ討議のしかたを、第一・二単元で、しっかりと指導するようにしています。

- ・ 四人一グループになる。
- ・ 進行役を立て、その人が話し合いを仕切る。進行役は日替わりで交代。
- ・ 話し合う前に、進行役は前に集まって、



イラスト：田上千晶

3 ノート指導はきめ細かく

ノート指導はすればするほど、国語の力がつくと思っています。ノートをきちんと取ることで、授業に臨む姿勢がつかれますし、家で学習内容を振り返ることもできるからです。

ノートは罫線で区切って上段と下段に分けさせています。上段は、板書の写しなどの授業記録、下段は、グループで話し合ったこと、自分が授業中に考えたこと、気づいたことや発表前のメモなどです。生徒には「下段をいかに充実させていくかが大事なんだよ。ノートを区切る線が、だんだん上にあがって下段のスペースが増えていくことを目指そう」と話します。また、単元の終わりに、その単元のまとめを自分の言葉で書かせるようにしています。

私は、単元が終わるごとにノートを集めるのですが、最初にノートを集めるときは、特に気合を入れて見るようにしています。生徒が書いた言葉を丁寧に読んでいき、必ずコメントを入れ、誤字もチェックします。すると、生徒は返ってきたノートを見て「こんなに細かいところまで読んでくれたのか」「たくさんコメントが書いてある」と、とても驚きます。うまくまとめている

生徒のノートはカラーコピーして模造紙に貼り、「ここがいい」と私がコメントを書き込んだものを廊下に掲示し、よいところをみんなで共有し、参考にし合います。また、年に何度か「ノートの大点検」を行い、観点を細かく示して、ノートをチェックするようにしています（下図参照）。

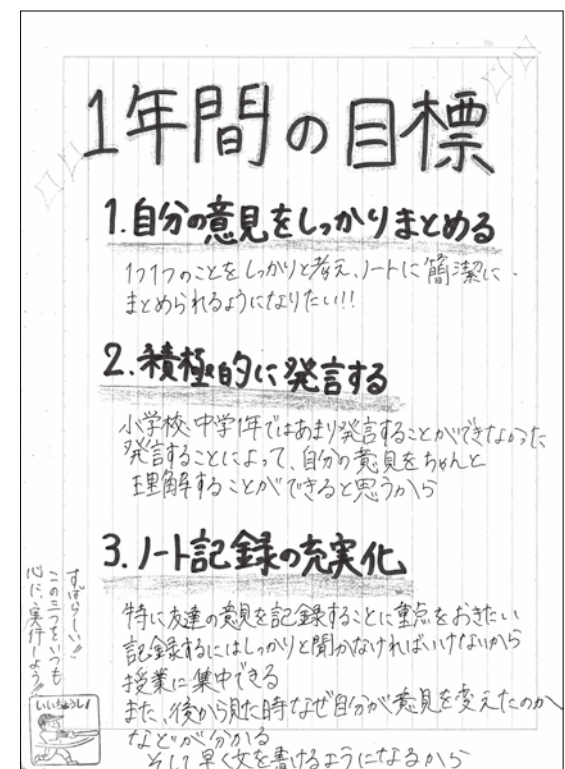
ノートを丁寧に見ていくのはとても骨の折れる作業ですが、ノートを大事に考えているということを、教師が態度で示さなければいけないと思っています。最初は細かくチェックしますが、慣れてくると、線を引いたり、丸を付けたりするだけで通じるようになります。「線が引いてあるから、先生はここが大事と言いたいんだな」と生徒がわかるようになってくるからです。そうやって、徐々にかける時間を減らしていくと、無理なくノート指導を続けていくことができます。

国語科は、学習の中でどのような力が身についたのか、他教科に比べ自覚しにくい教科だと思います。ですから、学習記録や自分の考えをノートにまとめて可視化することで、それが自分の力になっていることを意識させることができたいと思っています。

（談）

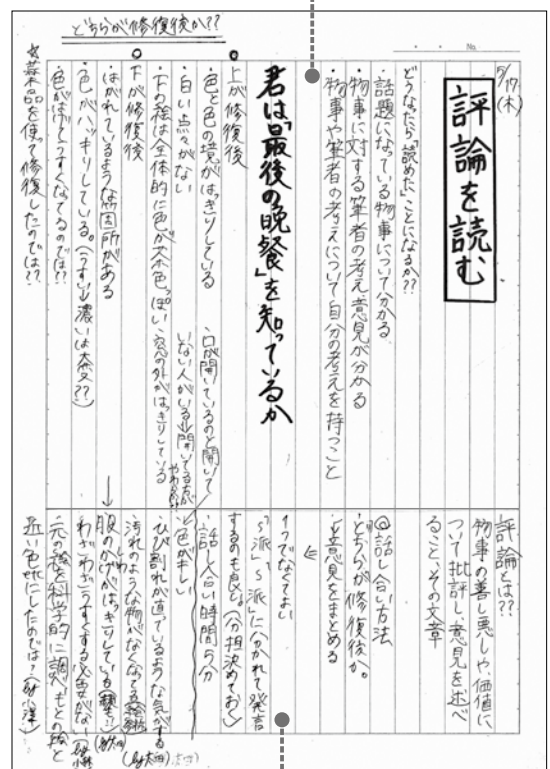
ノートの1ページ目

最初の授業で、1年間の目標を考えさせ、1ページ目に書かせる。授業のたびに目にするようになるので、目標を意識させることがねらい。



「君は『最後の晩餐』を知っているか」（2年）を学習したときのページ

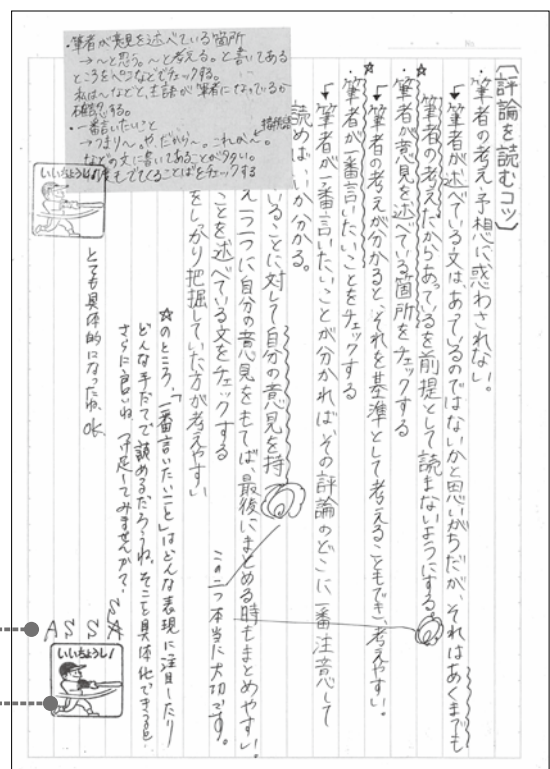
上段は授業の記録。板書や主な発言を記録する。



下段は、グループでの話し合いの内容や、自分の考えなどをまとめる。

単元の最後の「学習のまとめ」

単元の終わりには、学習のまとめをする。「君は『最後の晩餐』を知っているか」では、「評論を読むコツ」について、まとめさせた。



ノートを、四つの観点でA～Dの評価をつける。特にすばらしい人は、Sがつく。今回の観点は下記のとおり。

- 最後に「評論を読むコツ」が具体的にまとめられているか。
- 自分の考えがまとめられているか。
- 毎日の授業記録がしっかりできているか。
- ワークシートにきちんと書き込みがあり、ノートに貼つてあるか。



観点を示して、「足りないところをまとめ直してきたら評価を上げますよ」と伝え、多くの生徒がノートをまとめ直してくる。この生徒は、「評論を読むコツ」をまとめ直し、AからSへ評価が上がった。

スタンプは「いいちようし!」「もう一息」「問題をよく見て!」「がんばろう」の4種類がある。

生徒たちの「新鮮な気持ち」を大切に

堀江先生は月に二回ほど、「国語教室通信」というプリントを生徒たちに配布しています。国語の学習の見通しや本の紹介などをまとめたもので、授業びらきではまずこのプリントを配るそうです。プリントにはどのような思いが込められ、そこからどのような国語の授業が展開されていくのでしょうか。

1 授業への心構えをつくる

四月の生徒たちは、新鮮な気持ちで、新しいことを吸収しようという思いにあふれています。授業びらきは、そのような思いを大事にして、生徒が「さあ、国語の学習をがんばるぞ」と思えるようなものにしたと思っています。

最初の授業では、まずプリント「国語教室通信 No.1」（左ページ参照）を配布します。右側には、「これから、たくさんさんの『大人の言葉』に出会いましょう。そして、その

言葉をまねて使うことで身につけていきましょう」という、私から生徒へのメッセージが書かれています。この文章を読み、大事なところを線を引かせ、授業への心構えをつくりまします。

左側には、暗唱コーナーを設けています。特に一年生では、みんなで声を出すことの楽しさを味わわせたいと思っていますので、暗唱（または朗読）を必ず行うようにしています。この「口は一つに耳二つ」は、安居総子先生から教えていただいた『尋常小学読本』の文章です。文語調でリズムに

最初の授業で配布するプリント

生徒に読んでほしい本を紹介するコーナー。

暗唱コーナー。授業びらきでは、必ずみんなで声を出す場面を設定している。

「こんな気持ちで国語の学習に臨んでほしい」という、教師の思いを冒頭に綴った。

国語教室通信 No.1

中学校の国語教室
今日からスタート

砂野中の一年生のみなさん、
今日からいよいよ中学生の国語教室のスタートです。
向かって大きな一歩を踏み出す時期。国語教室でたくさんさんの「大人の言葉」に出会いましょう。

〈まねながら学ぼう〉
では、出会った言葉は、どうしたら身につけることができるでしょうか。
ゴツの二つは、いい言葉。んふうに書きたいな。と。思った表現をまねて、使ってみるということです。スポーツだって、一流の選手は、みんなその道のプロにあがれて、まねをしながら自分のスタイルを作っていきます。「おもしろいな」「いいな」の、心のアンテナを敏感にして、ノートに書き

留めたり、書き換えてみたりすることが、国語の力をつけますよ。

〈国語教育通信で〉
言葉の数を増やしましょう。教科外に出てくる言葉は、意味を調べて、使えるように――。

言葉に関するさまざまな情報を得ましょう。本の紹介もあります。自分の読書生活に生かしましょう。

国語教育通信は、試験にも出題します。暗唱などおさまじょう。

〈暗唱①〉
口は一つに耳二つ。
さればいふこと少なくて、多く聞くこそよかりけれ。
口は一つに目は二つ。
されば多くを見て知れて、えきなき話せぬをよき。
口は一つに手は二つ。
さればのみくこととりも二ばいはたらけ。
二ばいはたらけ。
二ばいはたらけ。
尋常小学読本 巻一 第十九課
「よかりけれ」
「えきなき話」

へちまっぴと見
ある ない
かお さんま
花の 愛の
日血 日入
せ七 八日
い 休
雪 雨

〈辞書を用意してください〉
▶ 次回の授業では辞書を用意してください。辞書は、これから少しずつ役に立つので、持っていない人は1冊買ってください。
▶ 新しく買う場合は、「中辞典」というサイズのもので。

〈予定〉
4月いっぱい、「国語教室入門」として、辞書を引く練習や聞き取りメモの練習などをします。
※ 5月から、週1回「書き」になります。1学期は毛筆、2学期は鉛筆です。習字道具、とっておくこと。

次時以降に辞書を引く練習をするため、辞書の準備をしておくようアナウンスしておく。

第一時・「国語教室通信」を読む。

・暗唱の練習する。

・学習記録のしかたを説明する。

第二時・前時で集めたノートから、学習記録がうまくまとめられている生徒のノートを紹介する。

・暗唱の練習をする。

第三時・自分が持っている辞書について調べる。

・辞書を引く練習をする。

第四時・暗唱発表会

・暗唱発表会のまとめ

第五時・暗唱発表会

・本（教科書）の部分の名称（表紙・見返し・奥付など）について確認する。

※第六時から、教科書に入る。

私は国語の学習の中で、「学習記録」と「辞書を引くこと」を大切にしているので、第二・三時でこの二つについては、丁寧に指導するようにしています。第四・五時では暗唱発表会を行い、第六時から教科書での学習に入ります。



ほりえ さわこ
堀江佐和子

東京都生まれ。東京都江東区立砂町中学校教諭。日本国語教育学会会員。安居総子先生、甲斐利恵子先生が主催する東京都青年国語研究会に所属し、単元学習を学ぶ。生徒たちの言語生活を広げ、コミュニケーションを大切にしたいと考えている。

2 「学習記録」を習慣づける

授業の終わり五分ぐらいで、必ず「学習記録」を書く時間を取っています。今日の授業で学んだ内容（客観的な記録）、新しく知ったことや感想（主観的な記録）をノートに五行程度でまとめさせます。学習

記録をつけることで、授業で何を学んだのかを振り返らせることができますし、それが蓄積されていけば、生徒たちの国語の力になっていきます。

最初のうちは、毎時間ノートを集めて、学習記録をチェックするようにしています。そして、きちんと記録できている生徒の

「星の花が降るころに」(1年)を 学習したときのノート

ノートは3段に分けるように指導している。

Pg.	1/4	(32)
	朗読 二、星の花が降るときに 冬来 みえ 作品のよさを語る	
21-11の展開は 思わすヒキ=されり可也		
	朗読の花が降るときに あらすじ 人物 + 事件 結末 わたし 夏文 戸部 君 （そうじのおはさん） 仲たがい 仲直り	
	今習記録 今日は朗読を聞き、新しく星の花が降るときにもやりました。 私も小学校六年生の後期に主人公とすべく似た体験をしました。六年生の夏、取れたたので、新しく友達も作れず大変でした。だから、主人公の立場がすこく伝わってきます。	
	星の花 金木屑 オシシ色の小さな サ化 甘い匂い（香り） 秋に木にぞく あたかも まじり。まじりど。 繊細 ほそりていてさよう。 まじりていてさよう。 金木屑 金木屑 物の形をあらわすま わりの糸	

・中段は板書と学習記録。学習記録は、授業の終わりに、5行程度でまとめさせる。

下段は辞書で調べた言葉やメモ。

「なんですよ」と話し、いくつかの言葉について意味を調べさせます。例えば「右」という言葉を辞書で引いてみると……

みぎ【右】
名 ①東に向かって南のほう。

〔小学館〕『新選国語辞典』第七版

みぎ【右】 ①相対的な位置の一つ。東を向

いた時、南の方、また、この辞典を開いて読む時、偶数ページのある側を言う。

(岩波書店)『岩波国語辞典』第五版

みぎ【右】①②アナログ時計の文字盤に向

かつた時に、一時から五時までの表示がある側。

(三省堂『新明解国語辞典』第七版)

このように、辞書によって説明のしかたが異なることを話し、「右」以外にも辞書によっていろいろな意味や用例が出そうなる言葉を生徒に引かせます。辞書の使い方については、教科書一年P22～23にも詳しく紹介されていますので、こちらも合わせて確認させるとよいでしょう。

それから、私は、辞書が引けたら生徒たちに拳手をさせるようにしています。そして早く引けた順に「一、二、三」と、手を拳

ノートをコピーして、他の生徒に紹介しています。そうやって、早い時期から丁寧に指導していき、学習記録をしっかりと習慣づけるようにするのです。

私は、「子どものノートを見ることは、その子自身を知ること」だと考えています。限られた授業時間では、すべての生徒と話



▲学期ごとに、ノートやプリントを綴じて冊子にする。
その際、目次や中扉も入れて整理する。



3 辞書で言葉の世界を広げる

を作るので、ノートだけでなく、プリント類もきちんとファイルに保管しておくよう、授業びらきの際に、生徒へ伝えるようにしています。

私は 生徒の語彙を広げるために、授業の中で辞書を多用します。そのため、「自分の辞書について知ろう」と題し、まず自分が持っている辞書の出版社名・発行年などを調べさせます。そして、「辞書によって、説明のしかたや扱う言葉の数は、さまざま

げた生徒と目を合わせながら数えていきます。そうすることで、「今日は早く引くぞ」という意識が生まれ、教室が盛り上がります。私自身も、授業中にたくさん生徒と目を合わせることができるので、楽しい気持ちになれます。

辞書を引く習慣というのも、やはり早い時期から指導しないと、なかなか身につけません。学習記録のしかたとともに、授業びらきで、しっかりと教えていかなければならないことの一つだと思っています。

談火

最初の出会いを魅力的に

授業びらきでは、生徒たちに「国語を学ぶ意味」について、丁寧に説明するという鈴野先生。また、文法が専門のため、初めて文法の授業をする際は、導入に力を入れるそうです。

文法は苦手意識をもつ生徒が多いと聞きますが、鈴野先生は、生徒たちの興味をどのように引き出しているのでしょうか。

1 なぜ国語を学ぶの？

最初の授業では、まず、教師自身が自己紹介をします。私は本校に二十二年勤務しているため、生徒のお兄さんやお姉さんを教えている場合も多く、昔のエピソードを紹介したりしながら、ユーモアを交えて、和やかに話をしていきます。

その後、ちょっと真剣な表情をつくって、「これから真面目な話をするよ。みんな、なぜ国語を学んだらう。だって、みんなはもう日本語を読んだり書いたり話したりすることができるよね。でも、中学校

では年間で三百八十五時間、国語の授業があるんだ。なぜこんなに学習しなければならないんだらう」と問いかけます。ひと通り生徒の意見を聞いた後、「言葉を理解できて話せる」とこと、「正しく言葉を理解して、豊かに使える」ことは違うということを、具体例を挙げながら説明していきます。

また、最近ではインターネットの普及で、膨大な情報から必要な情報を選び取る力が求められるようになり、その力を国語科で培っていかねばならないことや、直接に人とコミュニケーションを取ることが少なくなっているため、コミュニケーション

2 グループ学習の「約束事」をおさえる

始業のチャイムが鳴ったら速やかに着席する等、授業の「約束事」は、最初にきちんと指導することが大事です。特にグループ学習でのルールは、早い段階から押さえるようにしています。グループでの話し合いを効果的に行うことができれば、自然とコミュニケーション力を養うことにつながっていくからです。

私は話し合いをさせるとき、学習リーダーを中心に進めさせています。話し合う前に学習リーダーを廊下に集めて、話し合いのテーマや、どうやってみんなの意見をまとめていけばよいかを指示します。発言が苦手な子に対しては「私はこう思うけど、○○さんはどう？」と、自分の意見をまず示してから意見を求めるとよいことや、抽象的な発言をする子に対しては「例えばどういうこと？」と投げかけて具体的な話を引き出すことなどを伝えます。時間に余裕のあるときは、お昼休みに「学習リーダー会」を行い、リーダーを集めてその日の話し合いについて、振り返りをさせることもあります。

3 文法との出会いも魅力的に

私は、文法学習の「授業びらき」にも力を入れています。文法は、ただ活用パターンや助詞の種類を覚えるのではなく、生徒が自分で言葉の法則を見つけ出していくような楽しい授業にしていきたいと思っています。例えば、最初の文法の授業では、

友達に会う
友達と会う

という文章を板書し、「この二つはどう違うんだらうね。それを考えるために、言葉の『実験』をしてみよう」と切り出します。「会う」を他の動詞（結婚する・けんかする・頼む・電話する・惚れる・話す・話しかける……など）に置き換えて、「に」だけに使える言葉、「と」だけに使える言葉、両方に使える言葉に分類させていきます。そして、「に」だけに使える言葉が「頼む・惚れる・話しかける」であると知ると、生徒たちは「『に』は、一方向的感じがする」と気づき始めます。そして最終的に、「友達に会う」は、友達に一方的に会いにいったというニュアンスがあり、「友達と会う」は、お互い約束をして会ったというニュアンスがある、という両者の違いを、生徒は自分で考え、導き出していきます。



すずの たかし
鈴野高志

東京都生まれ。茗溪学園中学校・高等学校教諭。筑波大学日本語・日本文化学類卒業。茗溪学園在職中に一時休職し、筑波大学大学院教育研究科にて、主に昭和40年代以降の文法教育を研究。勤務校では中・高国語の他、外国人留学生への日本語指導も担当している。

力を国語科で鍛えていかなければならないことなども話します。そうやって、国語という教科がいかに大事で、将来に必要なもののかを、心を込めて話していきます。

また、最初の授業では、生徒たちにアンケートを行います。「国語という教科にどのようなイメージをもっていますか」「国語の授業へ要望があれば書いてください」などの質問項目に答えてもらいます。これにより、生徒の実態を大まかにつかみ、国語科に否定的な感情をもっている子には、担任に様子を聞きながら、フォローしていくようにします。



このように言葉の規則を帰納法的に見いだす方法を示してあげると、生徒は「そうか、わかった!」と明るい表情を見せてくれます。文法は退屈なものでなく、自分で法則を見つけ出すおもしろいものだ、早い段階で体感させたいと、私は思っています。

(談)

情報をわかりやすく、魅力的に伝える

使用教材：「月の起源を探る」（三年）

東京都港区立赤坂中学校教諭
甲斐利恵子



今回は、三年一学期の教材「月の起源を探る」を使った授業をご紹介します。この教材は、理論天文学者・小久保英一郎さんが書かれた説明文で、仮説と検証を重ねて月の起源を探究していく科学者の姿が見える、魅力ある内容です。

私は「情報をわかりやすく、魅力的に伝える」という単元を設定し、「小久保さんになったつもりで、月の起源をわかりやすく生き生きと伝えよう」と子どもたちに投げかけました。

教材研究で

最初にこの教材文を一読したとき、正直なところ「少し難しいな」と感じました。そこで、自分がこの内容をわかりやすく子どもたちに伝えようとしたら、どう説明するだろうと考えました。そして、文章を読み直し、自分の言葉で、教科書の図版を頼りに説明を試みました。すると、内容がスツと頭に入ってきて、この教材がとてもおもしろいものであることがわかりました。

まず、「月」という身近な天体が題材であることが魅力的です。そして、その起源について仮説と検証を繰り返しながら、自分の論を立てていくという科学者のひたむきな姿勢や、「研究は今日も続いている」という終わりのない探究心が垣間見えることが、とてもおもしろいと感じました。また、仮説の検証をコンピュータシミュレーションによって行っているという、最先端の技術のすばらしさも知ることができ、科学的な分野の説明文を読む醍醐味を味わえる教材だと思いました。

そこで、「情報をわかりやすく、魅力的に伝える」という単元を設定し、この教材の内容を自分の言葉で説明させることで、理解を深め、「わかりやすさ」について考えさせたいと思いました。この教材には、図版がたくさん使われているので、図版をA4判のサイズに拡大コピーしてパネルを作り、それを使ってグループごとにプレゼンテーションをさせることにしました。

第一時

単元の目標と学習の流れの確認 教師の音読を聞く

まず単元の目標について確認。これから音読する「月の起源を探る」の内容を理解し、わかりやすく、生き生きと魅力的に伝えられるようになろうと話し、次のような単元の流れを説明しました。

第二・三時

分担を決め、発表の練習をする

本時より発表の練習をします。この教材文は小見出しが付いているので、小見出しごとにグループ内で担当を決めました。グループでの練習に入る前に、最初の小見出し「はじめに」の部分を、わかりやすく魅力的に伝えるにはどうすればよいかを全員で考えました。「はじめに」は導入部分で、聴衆を引き付けるための工夫として、投げかけてみる方法をみんなで考えました。すると、子どもたちからは「最近、月を見上げていますか」「昔から、月にはうさぎがいると言われていますが、みなさんは信じていますか」などの、おもしろい導入が提案されました。

情報を相手にわかりやすく魅力的に伝えるためには、自分がその情報を正確にきちんと理解し、消化できていないといけません。「パネルを使ってスラスラと説明するだけでは、この単元の目標を達成したことにはなりません。生き生きと話して伝えるためには、その情報を深く理解していないければならないですよ」と、強調しました。また、子どもたちには、発表原稿を書かな

第一時 音読を聞く。

第二・三時 グループに分かれ、グループ内で分担を決め、プレゼンテーションの練習をする。

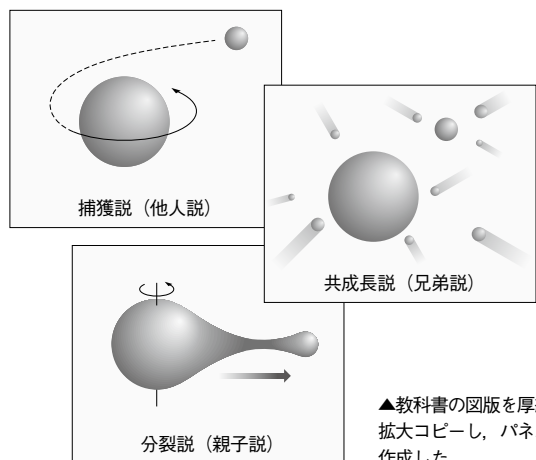
第四時

グループごとに発表をする。

そして、パネル（下図参照）を見せ、これを使って発表することを告げました。私は同時期に二年生のクラスで「やさしい日本語」（二年一学期教材）を使って、パネルを用いて子どもたちに説明させるという授業を試みていたので、「二年生でも同じようなことをしているんだよ」と、二年生の授業の様子を紹介しました。

パネルを見せたり、他学年の授業の様子などを伝えることで、子どもたちに「自分たちもやってみたい」「なんだかおもしろそうだ」と思わせ、単元の流れを明確にイメージさせ、モチベーションを高めることがねらいです。この日の子どもたちの授業記録を見てみると……

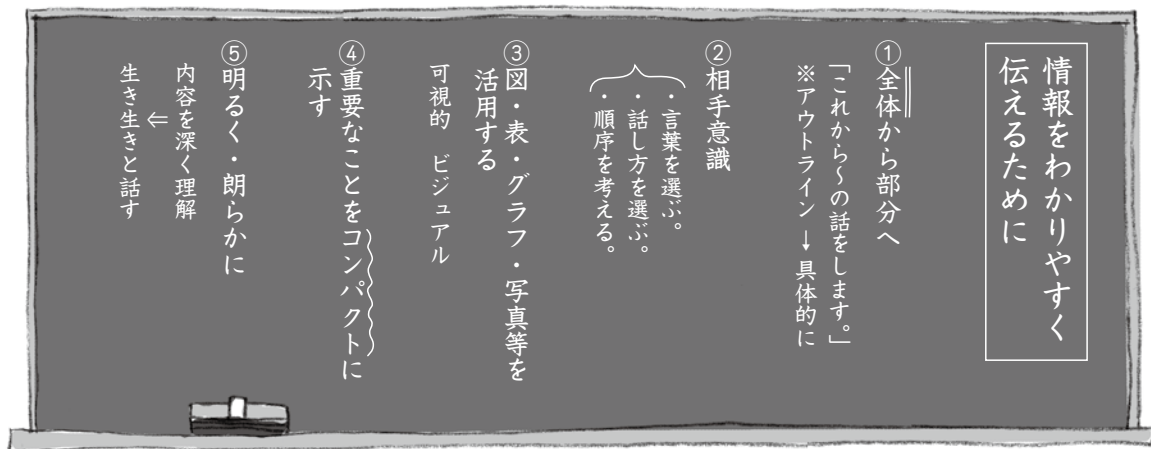
「月の起源を探る」、ちょっと難しかったです。二年生の授業がおもしろそうだったので、私も二年生と同じように、「わかりやすく」伝えることができるようになると思います。



▲教科書の図版を厚紙に拡大コピーし、パネルを作成した。

一読しただけでは、内容を理解しきれませんでした。先生から「一読でだめなら十読すべし！」と言われたので、内容を正確に生き生きと伝えられるよう、これからはがんばって読み深めます。

やはり、一読した後は「内容が難しい」という感想が多かったのですが、「わかりやすく魅力的に伝えられるようにならばいい」という意欲的な感想も多く見られました。



▲第4時の板書

がとても盛り上がりました。最後の十分で
通し練習をさせ、時間を計らせました。一
グループの持ち時間が五分なので、時間内
にうまく収まるよう、調整をさせました。

第四時

グループごとに発表をする

いよいよグループごとのプレゼンテー
ションです。グループに司会者を一人立て
て、その子が「これから〇班の発表を始め
ます。では、『はじめに』を〇〇さん、お
願います」と、挨拶と担当者の紹介をし
ます。

全部で五グループあるので、同じ内容の
発表を五回聞くことになるのですが、グ
ループによって発表のしかたがさまざま
だったので、全く飽きることがなく、とて
も楽しい時間でした。

例えば、あるグループは、「分裂説（親
子説）」の説明のときに、一人の子どもが
ぐるぐるとその場で回り、もう一人の子ど
もが「このように地球が高速で自転したた
め、その一部分がちぎれて月ができました
」と説明しました。すると、「もっと高
速で回転しないとダメだよ！」と、回って



いる子に突っ込みが入り、教室が笑いに包
まれました。また、「巨大衝突説」を説明
するときに、「ここに地球がありますよね。
ここに火星ほどの大きさの天体がドーンと
ぶつかるわけです。すると、細かい粒子が
ウワーツと飛び散るんですね」と、擬音語
を入れながら身振り手振りで、楽しく説明
するグループもありました。他にも、自作
のパネルを使って説明するグループもあり、
それぞれに工夫して、生き生きと発表する
ことができていました。

すべてのグループの発表が終わった後、

各グループの発表のよかったところを挙げ
ながら、単元のまとめを板書（上図参照）
し、次の①～⑤について説明をしました。

* * *

情報をわかりやすく伝えるために

①全体から部分へ

「これから大きく三つの話をします」と
か「これからお話しするのは、私の春休みの
思い出です」などと、まず全体を示して
から具体的な話をすると、聞き手がぐっと
情報を受け取りやすくなる。小見出しを活
用するとよい。

②相手意識

例えば、伝える相手が小学生だったら
「月は特異な天体だ」と話してもわからな
いかもしれないので、他の言葉に置き換え
る必要が出てくる。相手への意識をもち、
言葉を選んだり、話し方や話す順番を考え
たりすることが大事。相手がどんな情報を
もっている人で、どんな情報を求めている
のか考えて話すといよい。

③図・表・グラフ・写真等を活用する

可視的なものを使って説明すると、相手
に情報が伝わりやすい。

④重要なことをコンパクトに話す

重要だからといって、ダラダラ長く話す

とかえってわかりにくくなる。大事なこと
こそ、印象に残るようにコンパクトに話す
とよい。

⑤明るく・朗らかに

人に何かを伝えるときの基本姿勢。内容
を正確に理解し、自分の言葉で語れるよう
になっていることが前提である。

* * *

この単元では、「魅力的に生き生きと」
話すことを大事にしました。大人になると
プレゼンテーションをする機会が出てきま
すが、ただ原稿を読み上げているだけのよ
うな発表では、聞き手には伝わりにくいの
です。生き生きとした魅力的なプレゼン
テーションをするには、その内容をきちん
と理解して頭に入れ、わかりやすく伝えよ
うという意識をもたなければなりません。
この教材は、そういう姿勢を養うためにも
とても有効だと思います。小見出しが付い
ているので全体の構造が捉えやすく、また
図版が多用されているのでプレゼンテー
ションのイメージがもちやすいからです。
そして、何より内容がとても魅力的で、読
めば読むほどおもしろい。子どもたちと
いっしょに読み深めることのできる教材だ
と思います。

1

デザインとしての文字

書家・中村不折の仕事を振り返る

今号より「書写の世界を広げよう」と題し、書道博物館（東京都台東区）の鍋島稲子先生に、三回にわたって連載をしていただきます。第一回は、「デザインとしての文字」。

書道博物館の創設者である中村不折がデザインした文字を振り返ります。

1 はじめに

書写の教科書には、「デザイナーと文字」（P71）や「広告と文字」（P80）などのコラムがあり、デザインされた文字の魅力やおもしろさが紹介されています。書道博物館の創設者である中村不折（二八六六―一九四三）もまた、本や雑誌の表紙、店の看板など、さまざまな場面で文字をデザインしてきました。今回は、不折の仕事を振り返り、デザインされた文字の魅力を探っていききたいと思います。

2 エディトリアルデザインと文字

画家、書家である不折が世に知られるようになったのは、正岡子規（一八六七―一九〇二）が編集主任を務めていた新聞『小日本』（後に『日本』となる）の挿絵を担当するという機会に恵まれたからでした。当時、文字ばかりの新聞に、ほっと一息つけるような挿絵を入れたいとの思いで、子規が友人の画家・浅井忠（あゐちゆう）に誰かいないかと依頼したところ、中村不折に白羽の矢が立ったのです。

新聞は、多くの人が目にします。それ



▲雑誌『ホトトギス』の表紙。不折の手がけたデザインが斬新で話題となった。



までまったく無名であった不折ですが、彼の新聞挿絵は線描が力強く、構図もおもしろいと、当時の作家や俳人たちの目にとまり、本や雑誌の挿絵や、装幀などの依頼がくるようになります。不折は子規のおかげで新聞挿絵の分野で開拓者として認められ、この仕事を通じて、多くの文豪たちと交流を深めました。

本の挿絵では、夏目漱石（一八六七―一九一六）の『吾輩は猫である』、『漱虚集』や、伊藤左千夫（一八六四―一九一三）の『野菊の墓』などが知られています。島崎藤村（一八七二―一九四三）の『若菜集』、『一葉舟』、『落梅集』などは、本のタイトル文字や表紙絵、文中の挿絵まですべてを担当した、いわゆるブックデザイナーとしての仕事をしています。

雑誌の挿絵では、森鷗外（一八六二―一九二二）が主宰する『めざまし草』を依頼されたのが最初でした。その後、正岡子規が創刊した『ホトトギス』の装幀や挿絵を数多く手がけ、表紙のタイトル文字をまるでマークのようにしたり、文字と絵とを一体化させたりと、斬新なデザインを次々に考案しました。

不折のこうした活動はますます注目を浴び、店の看板やラベル、商品パッケージの文字などを手がけるようになります。

3 広告と文字

インドカレーや和洋菓子で有名な「中村屋」の看板は、みなさんが最もよく目にするもののひとつでしょう。また中村屋の羊羹パッケージの文字も、かつては不折が書いていました。「黒光羊羹」などは、黒光りした美しくて甘い羊羹を彷彿させるような出来栄えでした。ちなみに黒光とは、夫の相馬愛蔵とともに中村屋を創設した相馬黒光を指します。当時、中村屋には芸術家や文学者たちが集い、相馬夫妻は彼らに惜しみない支援をしていました。不折もこの中村屋サロンに出入りし、多くの人たちと親交を深めました。相馬夫妻は、味のある字を書く不折に、看板文字や商品パッケージの文字を依頼したようです。



▲インドカレーでおなじみの「新宿中村屋」の看板。目にすることの多い不折の看板文字の一つ。



▲東京都港区にある「大坂家」の看板。江戸時代に創業し、300年の歴史をもつ老舗和菓子店。

鍋島稲子
なべしまとうこ
台東区立書道博物館主任研究員。筑波大学大学院芸術学
研究科博士課程修了。博士（芸術学）。東京国立博物館常務研
究員。大阪教育大学非常勤講師。

価には賛否両論ありましたが、『龍眠帖』は当時ベストセラーとなり、何度も版を重ねたほど話題となりました。百年以上経った今でも、決して古くさくなく、むしろモダンなスタイルに思えるほどです。この新機軸を基に、その後不折は数々のデザイン文字を手がけていきました。

最後に、明治の文人や芸術家たちが不折の文字を心から愛していたことを物語るエピソードを紹介しましょう。森鷗外は不折書のファンで、自分が詠んだ漢詩を作品にしてほしいと不折によく頼みにきていました。そして人生の最期を迎えた鷗外は、「自分の墓は『森林太郎墓』と不折に書いてもらおうよう依頼してほしい」と書き遺します。不折は、その他に伊藤左千夫、荻原守衛、中村彝などの墓碑銘も揮毫しています。今では当たり前となったデザイン文字のひとつの原型は、不折が生み出し、そしてそれを愛した文豪らによって今日にまで伝えられている。と言っても過言ではないでしょう。

さまざまな文字にふれよう

～書道博物館のご案内～

今回ご紹介した中村不折が創設した書道博物館には、中国及び日本の書道研究における貴重な資料が数多く収蔵されています。

展覧会ごとにギャラリートークを開催しており、展示資料を見ながら、鍋島先生が詳しく解説してくれます。事前に予約すれば、小・中学生対象の「キッズセミナー」も開催してくれるそうです。

現在開催中の企画展は「唐時代の書、徹底解剖!!」（～6月16日まで）。唐の四大家をはじめ、唐時代を代表する書の名品、そして貴重な肉筆資料である敦煌写経など、唐時代の華やかな書の数々をご紹介します。ぜひ、ゴールデンウィークなどを利用して、見に行かれてはいかがでしょうか。



台東区立書道博物館

- 入館料：一般 500円（300円） 小・中・高校生 250円（150円）
※（ ）は20人以上の団体料金
- 開館時間：9：30～16：30（入館は16：00まで）
- 休館日：月曜日
- 電話：03-3872-2645
- アクセス：JR鶯谷駅から徒歩5分
- HP：<http://www.taitocity.net/taito/shodou/index.html>



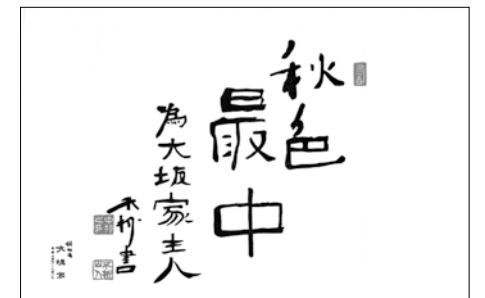
さにキュッと一杯飲みたくなるような気分にさせてくれる文字です。

看板の文字は、そのお店の「顔」ですから、まずはわかりやすさ、親しみやすさが一番です。しかし、ただわかりやすいだけでは、人の気持ちを惹きつけることはできません。やはり、看板が個性的であることも重要な要素です。その点、不折の文字には、人の目を捉えて離さない独特な魅力があります。

そして商品パッケージの文字は、購買意欲をそそるものでなくてはなりません。先に述べた和菓子やお酒のパッケージがその好例であり、商品の特徴やおいしさが直に伝わってくるような雰囲気のある

文字で書かれています。

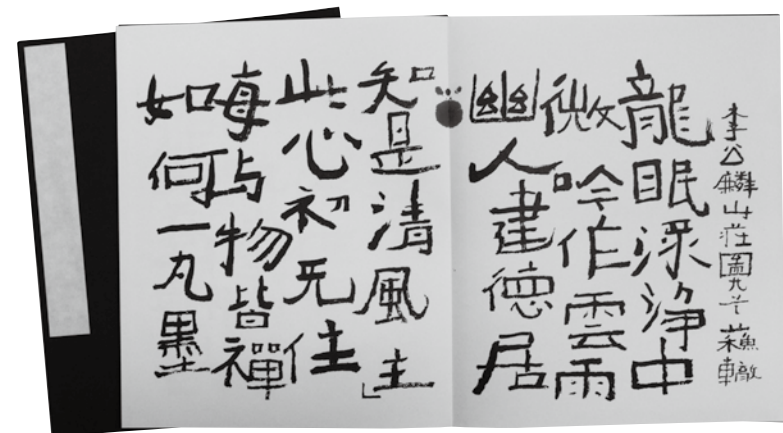
不折には、こうしたデザインとしての文字を自在に操る稀有な才能がありました。これらの文字の多くは、明治四十一年（一九〇八）、不折が書道界にデビューする契機となった『龍眠帖』という作品をベースにしています。当時、不折が神経病にかかり、そのリハビリとして書いた習作です。それまでの不折書には見られなかった斬新な書風に、友人であり俳人の河東碧梧桐（一八七三～一九三七）が驚き、出版して世に送り出しました。楷書と隸書とを織り交ぜた素朴な書風に不折の個性が折り重なった、不折書の新機軸でした。この書の評



▲「大坂家」の看板商品「秋色最中」のパッケージ。見事なバランスで文字が配置されている。



▲人気の日本酒「真澄」の文字は、目にしたことがある人も多いだろう。



▲『龍眠帖』 明治41年（1908）複製

平成24年度版「中学書写 学習指導書」ワークシート訂正について

平成24年度版「中学書写 学習指導書」付属 DVD-ROM に収録されているワークシートに誤りがございました。謹んでお詫び申し上げます。

該当するシートにつきましては、訂正を施したうえで、弊社ホームページ「光村チャンネル」に、データをご用意いたしました。お手数をおかけいたしますが、ご使用の際には下記 URL よりダウンロードしていただきますようお願いいたします。

「光村チャンネル」>「中学校書写」>「訂正のお知らせ」
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasyo/chugaku/shosha/teisei>

光村「国語デジタル教科書」をお使いのみなさまへ

平成25年度用教科書の訂正に伴い、「国語デジタル教科書」のバージョンアップを行います。今回のバージョンアップでは、教科書の訂正箇所の反映および新機能の追加があります。書き込んだ画面の保存機能（画面アルバム）や道具箱などの新たな機能を加え、さらに使いやすくなりました。デジタル教科書の目次画面下に〈バージョンアップの確認〉ボタンがございます。こちらのボタンを押していただくと、バージョンアップができるようになっております。

詳細につきましてお尋ねの場合は、デジタル教材お客様窓口（03-3493-5741）までご連絡ください。



▲目次画面

このボタンを押すと、バージョンアップができます。

▲今回のバージョンアップで追加される道具箱の目次画面

平成25年度用教科書 訂正のお知らせ

平成25年度用教科書では、平成24年度版教科書から以下の箇所を訂正しております。校内の先生方でご確認のうえ、ご指導の際には、十分ご注意くださいようお願い申し上げます。

■国語

学年	ページ	行など	24年度	25年度
1年	22	下枠	【録音】 ロクオン レコードやテープなどに音を記録すること。	【録音】 ロクオン CDやテープなどに音を記録すること。
	23	上図	生長について	成長について
	79	注④	血液中の白血球が極端に増える血液のがん。	血液中の白血球などの数に異常が生じるがんの一種。
	79	注⑥	患者自身の血液や骨髄から、白血球を再生してくれる幹細胞を取り出し、抗がん剤による治療後に体内に戻す。	主に患者自身の血液から、白血球などを再生してくれる幹細胞を取り出し、抗がん剤による治療後の患者の体内に移植する。
	94	14	だからグリスをぬってやらないと	だから砂を落としてやらないと
	94	脚注	14 グリス 革や金属などの手入れに用いられる油脂。グリース。	(削除)
2年	225	上8	・二つの文節が	・二つ以上の文節が
	144	脚注	真言宗御室派の大本山	真言宗御室派の総本山
	151	脚注	帆掛け船	帆掛け舟
3年	34	テーマ例	高齢化社会	高齢社会
	177	脚注	1 サイト ウェブ・サイトの略。インターネット上のホームページのこと。	1 サイト ウェブサイトの略。
	181	例の枠	衆議院選挙	衆議院議員総選挙
	239	福祉	高齢化社会	高齢社会

■書写

ページ	行など	24年度	25年度
2	中央	写真の中から文字を探そう…66 身の回りの文字を調べよう…68	1 写真の中から文字を探そう…66 2 身の回りの文字を調べよう…68
4	下段右	元永本古今集 平安	元永本古今和歌集 平安
56	下段右	●漢字と仮名を調和させて書く。 ステップ1～5 (P50～55)	●漢字と仮名を調和させて書く。 ステップ1～3 (P50～55)
59	下段中央	普通 宛名 抱く 弾む	葉書 普通 宛名 抱く 弾む
60	下段右	●書体を選んで書く。 ステップ1 (P58・59)	●書体を選んで書く。 ステップ (P58・59)
72	中央上	行の中心 →P13	行の中心 →P16
87	下段左	宛名 抱く 頃 弾む	葉書 宛名 抱く 頃 弾む